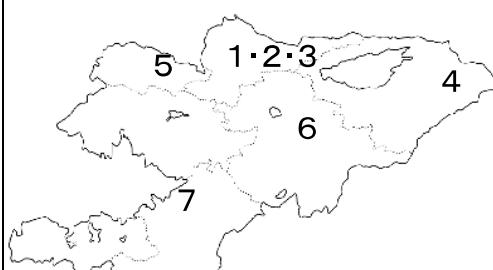


無償資金協力に係る事後評価票

(注)本案件は外務省評価案件であり、外務省による一次評価を踏まえ外部有識者による二次評価を実施していますので、評価項目ごとの二次評価結果を追記しています。
二次評価の概要については、外務省ホームページに掲載されている無償資金協力におけるプロジェクト・レベル事後評価報告書(平成20年度)をご参照下さい。

担当公館名：在キルギス共和国日本国大使館	
国名：キルギス共和国	案件名：地方小児医療機材整備計画
E／N署名日：2004年1月16日	供与限度額：3.99億円
先方実施機関：保健省	完工日：2005年2月18日
他の関連協力：平成7年度一般プロジェクト無償 国立小児病院医療機材整備計画 平成10年度一般プロジェクト無償 ビシュケク緊急医療改善計画 平成14年度一般プロジェクト無償 産科婦人科医療機材整備計画	
1. 案件の目的 (B/D 時の目標・想定効果を記載)	1991年末の独立以降、キルギスでは、経済・財政的困難の中で、医療サービスの質の低下と施設・機材の老朽化が顕著となり、特に、地方の医療施設での医療水準の低下が大きな問題となっていた。これを受け、我が国は、小児医療分野で診断、治療の中心的な立場にある4州の州立統合病院小児部門及び小児トップレファラル3施設の計7医療施設に対し、基礎的な医療機材を整備することで各施設の機能を改善し、ベーシック・ヒューマン・ニーズ(以下、BHN)充足の観点から特に重要な小児医療水準の向上を目標として本件を実施した。
2. 案件の内容	キルギス小児医療分野で診断、治療の中心的な立場にある4州の州立統合病院小児部門及び小児トップレファラル3施設の計7医療施設に対し、基礎的な医療機材を整備する。主な供与機材は以下の通り。 <ul style="list-style-type: none"> ・ オシュ・ナリン・イシクリ・タラス州の各州立統合病院：蘇生セット、麻酔器、オートクレープ、除細動器、気管支ファイバーセット、心電計、電気メス、インファントウォーマー、手術灯、手術台、患者モニタ、光線治療器、吸引器、超音波診断装置 ・ 国立産科学・小児科学研究所：蘇生セット、麻酔器、遠心器、除細動器、気管支鏡、心電計、蛍光顕微鏡、手術灯、手術台、患者モニタ、光線治療器、吸引器、超音波診断装置 ・ ビシュケク市立小児救急病院：体重計、光線治療器、吸引器、シリニジポンプ、血液冷蔵庫、超音波診断装置 ・ 国立小児病院：心電計、気管支ファイバーセット、超音波診断装置 <p>●サイト図</p>  <p>1 国立小児病院(ビシュケク市) 2 ビシュケク市立小児救急病院(ビシュケク市) 3 国立産科学・小児科学研究所(ビシュケク市) 4 イシクリ州立統合病院(イシクリ州カラコル市) 5 タラス州立統合病院(タラス州タラス市) 6 ナリン州立統合病院(ナリン州ナリン市) 7 オシュ州立統合病院(オシュ州オシュ市)</p>

3. 案件の妥当性	<p>全般的評価：A (外部有識者による二次評価:A)</p> <p>①我が国の対キルギス援助方針との整合性：我が国はキルギスの市場経済化・民主化に向けた改革努力を一貫して支援してきた。特に、保健医療分野や基礎教育分野を含むBHNの充足は、対キルギス援助重点分野の一つである。本案件は、基礎医療、特に小児医療分野での協力であり、我が国の援助方針に合致する。</p> <p>②キルギスの開発戦略との整合性：「2003-05年における国家貧困削減戦略」では、ソ連時代の大規模かつ非効率な行政システムの改善、教育・医療等の社会保障システムの効率化、小児を含む社会的弱者への教育・医療アクセス向上等を通じた公正な社会の構築を上位目標に掲げ、保健医療分野では病院の統廃合等による効率的な医療体制の構築を通じた基礎医療サービスの改善に取り組んでいた。本案件は、上記改革による病院統合後も地方及び首都の小児医療分野で中心的な立場にある7医療施設に対する医療機材整備支援であり、国内の小児医療アクセス向上に資するものであり、同国開発戦略に合致する。</p> <p>③現地でのニーズとの整合性：国内のほぼ全ての病院で医療機材の不足や老朽化・故障による医療サービスの質の低下が深刻化していたところ、当国での医療機材供与のニーズは高いものであった。</p>
4. 施設／機材の適切性・効率性	<p>全般的評価：B+ (外部有識者による二次評価:B)</p> <p>本案件では、供与機材の妥当性を8項目（維持コスト、基礎的診療における必要性、小児医療における必要性、有用性、利用可能性、裨益効果、妥当性阻害要因の有無）につき検証・選定した。また、各施設が特に必要とする機材については妥当性を別途検証して供与の可否を決定した。なお、国立小児病院（平成7年度無償「国立小児病院医療機材整備計画」）及びビシュケク市立小児救急病院（平成10年度無償「ビシュケク緊急医療改善計画」）は我が国無償資金協力により基礎的な小児医療機材を整備済みであったため、右2施設へは現状を補完する診断機材を中心に整備し、また、タラス・イシクリ・ナリン各州の州立統合病院は平成14年度無償「産科婦人科医療機材整備計画」により産科・婦人科のみでなく小児医療で使用する機材も一部整備済みであったところ、本案件ではこれまで未整備の機材及び量的充実が必要な機材を整備した。全体として機材の選択・投入は適切・効率的であった。また、供与機材は概ね適切に活用されている。</p> <p>他方、今次事後調査では、供与後2～4年経過した頃より、インファントウォーマーやX線撮影装置など作動不良・故障のため使用停止となっている機材が見られた。</p> <p>コスト面については、機材の種類や案件規模が異なるため、他のドナーの医療機材供与支援との比較は困難であるが、我が国他の無償案件と比べ、供与後の広報効果が高く、多くの裨益対象者（18歳未満の小</p>

	<p>児人口約200万人)を有する点で極めて効率的な支援である。</p>  <p>手術台、検眼鏡、薬品冷蔵庫(オシュ州立統合病院)</p>
5. 効果の発現状況(有効性)	<p>全般的評価：A－（外部有識者による二次評価：B+）</p> <p>各対象施設に以下の項目につき照会し、対象病院の診断・治療能力の向上を確認したところ、本案件の効果は十分達成されていると判断される（例：a. オシュ州立統合病院及びb. タラス州立統合病院の2003年・2007年データ比較）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 超音波診断件数(a :2319件→4005件、b :16072件→39923件) ②レントゲン検査数 (a :2058件→8097件、b :1197件→2426件) ③手術件数(a :3791件→4465件、b :774件→2035件) ④来院者数(a :15225名→16950名、b :1410名→3654名)
6. インパクト(上位目標への影響等)	<p>全般的評価：A（外部有識者による二次評価：B+）</p> <p>キルギス政府は貧困削減を開発上の上位目標と掲げ（2008年現在、人口の約40%が貧困層に属する）、その手段として経済開発と社会保障の充実、効率・効果的医療体制の整備を重視している。本案件は、キルギス国内7箇所の重要な小児医療施設の診療・治療の改善・効率化に貢献し、貧困層を含む一般国民に少ない経済的負担で医療サービスを提供する公的医療施設の医療機能を改善し、小児・未成年全般の健康増進を促進するもので、キルギス政府の目標に合致する。</p>
7. 自立発展性・さらなる改善の余地	<p>全般的評価：B+（外部有識者による二次評価：B）</p> <p>キルギスでは、キルギスメドテクニカ社（民営化された旧医療機器保守公社）を主とする民間保守業者が保守契約や病院からのメンテナンス依頼に基づき機材の維持管理・保守に当たっており、保健省が保守・修理費用を財政的に支援している。他方、キルギス保健省にとって高額な修理費用等の捻出は困難である上、使用頻度が高く機材に過重な負担がかかり耐用年数内に機材が故障してしまうケースや、優秀な技術者の国外流出による同社の保守能力不足・低下のため修理不能となるケースがあった。技術者の修理能力・維持管理能力が向上すれば、現在使用不可能となっている一部の機材の使用が可能となり、当国的小児医療改善に一層寄与できる。</p>
(1)対応方針	<p>予算措置の確保を含めて引き続き機材の適切な維持管理に努めるよう先方政府に申し入れる。また、本年度新設のJICA研修「中央ア</p>

	ジア地域「医療機材維持管理」への技術者の参加を促進する。またフォローアップ事業も検討する。
(2) 対応方針理由	我が国は本件を含む4件の無償資金協力により国内主要医療施設に機材供与を行っており、上記研修を通じたキルギス国内技術者の維持管理技術の向上により本案件の持続発展性向上が期待される。
8. 広報効果(ビギナリティ)	<p>全般的評価：A一（外部有識者による二次評価：B）</p> <p>署名式・引渡式時に広報に努め、当地プレスに報道された。また、すべての対象施設において、病院入り口等に設置の供与記念プレートやODAマーク付き供与機材が来院者の目に直接触れている。</p>  <p>各機材にはODAマークが貼られ（写真左:X線撮影装置 写真中:吸引器）、各病院には本件支援を記念したプレートがある（写真右:オシュ州立統合病院）</p>
9. 被援助国による評価 (外交的効果についても、本欄に記述する)	各種会談や視察時に保健大臣を含む保健省幹部及び対象小児医療施設院長らから、診断・治療能力が向上したとして謝意が表されている。また、オシュ州立統合病院より、本年10月のキルギス南部地震発生時、小児119名を含む多くの被災者が同病院に搬送されたが、本件供与機材を活用し緊急時の医療ニーズに応えることが出来たとして、謝意を受けた。保健医療等、国民に直接裨益する我が国の対キルギス支援が良好な対日感情の形成に極めて有意義と思料する。
10. 提言・教訓	基本設計調査報告書では、被供与先の維持管理能力や財政基盤等を含む総合的な考察に基づいて機材の妥当性を検証しつつ供与機材を選定したことが理解できる。他方、一部の機材の故障・作動不良も出てきていることから、今後は被援助国の維持管理能力をさらに厳格に審査した上で、供与品目を絞り込み、また、高い使用頻度や過重負担が予想される機材は数量を増加するなどの工夫とともに先方実施機関による機材の更新が望まれる。
11. その他	国立産科学・小児科学研究所は、組織上、国立小児病院に統合され、現在は同病院付属の母子保健センターとなっている。この統合過程で、当初、同研究所に供与された28機材中13機材の国立小児病院（本院）への移設を確認した。